

方面	第80回定期演奏会	(1面)
1 師団	BCTC訓練	(3面)
12 旅団	旅団レンジャー教育	(4面)
1 施設団	新隊員漕舟競技会	(5面)
関東補処	第6代最先任上級曹長着任	(5面)



令和5年9月25日 第1064号

総監統率方針「強靱な東部方面隊の創造」
総監要望事項「万事作戦を基準」

陸上自衛隊東部方面隊広報紙
発行所：方面総監部広報室
住所：東京都練馬区大泉学園町
専用線：8-37-2446



心に響く演奏を披露した音楽隊



作曲者の意図を指揮で表現する音楽隊長

東部方面音楽隊は9月2日、東京文化会館（台東区上野）において、第80回定期演奏会を実施した。また本定期演奏会の場を活用して東部方面隊訓練検閲を行った。

東京文化会館は今年で開館61年目を迎え、これまで国内外のさまざまな一流アーティストたちが名演奏を披露してきた、由緒あるコンサートホールである。クラシックの聖地とも呼ばれるこの会場にふさわしく、今回は高度な技術を要する曲目を多数選曲し、プログラムが構成された。

演奏の幕開けは国歌「君が代」で厳正な雰囲気を出した。そして第一部ではトロンボーンとバンドが協演しながら展開する魅力的な「トロンボーン協奏曲」や和太鼓等による和風楽曲などを演奏し、訪れた吹奏楽部の学生たちは熱心に聞き入っていた。第二部ではマーチのフルコースをイメージさせ、聴衆の多数決で選択された4曲

に加えてアンコール曲を披露した。また男女2人のテンポ良い司会により聴衆の心をつかみ、自衛隊に対する親近感を大いに醸成した。

「最後まで満足感のある演奏会でした」「パンフレットの表と裏を使って曲を決める演出が楽しかった」など、多くの好意的なコメントが寄せられた。また音楽隊の女性若

年隊員であり、本演奏会のトロンボーン独奏を担当した野田士長は「今回の定期演奏会では、コンチェルトのソリストを務めるといふ貴重な機会をいただきました。約18

00人のお客様の前で演奏するのはとても緊張しましたが、後方から聴えてくる先輩たちの音や熱心に聴いてくださっているお客様を見てパワーをもらい、楽しんで演奏

することができました。部内外問わず、応援して下さる方々の温かさを改めて実感し、これからも音楽を通してメッセージを伝えられるように努力していきたいと思いましたが」と語った。

本演奏会終了時に回収したアンケートによれば、青少年層20代以下では8割以上が最高評価を付けるとともに、約7割の方が定期演奏会に初めて訪れた方であった。

なお本演奏会は訓練検閲も兼ねており、コンサートマスターでもあるクラリネット奏者の加藤2曹と前述のトロンボーン奏者の野田士長が優秀隊員として表彰された。

クラシックの聖地で荘厳な響きを 第80回定期演奏会



トロンボーン独奏をする野田士長



聴衆との一体感を演出した2人の司会者

「最後まで満足感のある演奏会でした」「パンフレットの表と裏を使って曲を決める演出が楽しかった」など、多くの好意的なコメントが寄せられた。また音楽隊の女性若年隊員であり、本演奏会のトロンボーン独奏を担当した野田士長は「今回の定期演奏会では、コンチェルトのソリストを務めるといふ貴重な機会をいただきました。約1800人のお客様の前で演奏するのはとても緊張しましたが、後方から聴えてくる先輩たちの音や熱心に聴いてくださっているお客様を見てパワーをもらい、楽しんで演奏することができました。部内外問わず、応援して下さる方々の温かさを改めて実感し、これからも音楽を通してメッセージを伝えられるように努力していきたいと思いましたが」と語った。

『親と子のアウトドア体験』を支援 約100人が貴重な体験



一番人気だったCH-47JAの体験搭乗



人命救助セットを体験する参加者



非常用糧食を見せ合う参加者

方面隊は8月24日、朝霞駐屯地において親と子のアウトドア体験を支援した。

本イベントは夕刊フジ（産経新聞社）が主催するもので平成元年から実施されている。コロナ禍のため2年間の中断があったが、今年で35回目の開催となる。今回は応募した小学1年から高校2年生の子どもや保護者など99人が参加した。イベントの内容は東部方面音楽隊のウェルカム演奏に始まり、ヘリコプター（CH-47JA）体験搭乗、高機動車体験試乗、非常用糧食等の体験喫食、人命救助システム展示・体験、東部方面音楽隊の練習風景・生活隊舎見学、広報センター見学など盛りだくさんであった。

第12ヘリコプター隊の支援によるヘリ体験搭乗においては、朝霞訓練場から都内上空を飛行する約15分間のフライトを行う。参加者は機内からの景色やヘリの乗り心地を楽しんでいた。また第32普通科連隊の支援による高機動車体験試乗においては、駐屯地内約10分のコースを各要所の案内を交えて行い、参加者は朝霞駐屯地の歴史に触れながら、心地よい風を感じていた。厚生センターでの体験喫食においては、非常用糧食等7種類から選択してその味を堪能した。第1施設大隊の支援による人命救助システム展示・体験においては、個人用セット、破壊構造物探知機等のブースを開設し、参加者はそれぞれの装備の説明を受け、また体験する動作への理解を深めていた。

参加者からは「貴重な体験ができた」「隊員が皆、優しくかつ「自衛隊をより身近に感じることができた。また参加したい」との声が多く聞かれた。

タリスマン・セイバー 23

高射特科部隊初 豪州での実射訓練



中SAMの実射

第2高射特科群は7月9日から8月3日までの間、豪州における米豪軍等との実動訓練「タリスマン・セイバー23」に参加した。本訓練は米豪軍が実施する共同軍事演習の一環として実施され、豪州においては初の03式中距離地对空誘導弾の実射となった。

豪州の広大な演習場を活用し、器材を最大限隔離した陣地の占領及び複雑な地形を利用した多数の陣地変換等、国内では困難なダイナミックな部隊運用を演練することができた。

実射訓練では米国射場では実施できない近距離限界空域での射撃を実施し、複雑な地形を考慮した高難度の実射が求められたが、見事撃成功を収めた。

また実機(米・F35)との対抗訓練を実施し、ステルス戦闘機等の最新最精鋭の経空脅威への対応能力を検証・訓練することができた。

さらに訓練に参加した隊員は、豪陸軍唯一の防空部隊を有する砲兵第16連隊との共同統裁、意見交換等により、防空部隊として初めてのカウンターパート関係を構築するとともに、他国軍の隊員とも各種交流を通じて親睦を深めることができた。

本訓練で2高群はタリスマン・セイバーに陸上自衛隊高射特科部隊として初めて参加し、対空戦闘に係る射撃指揮・操作能力の向上及び同盟国・同志国との連携の強化について大きな成果を獲得することができた。

2高群は引き続き、同盟国・同志国、航空自衛隊等と連携しつつ、統合防空ミサイル防衛能力の向上及び望ましい安全保障環境の創出に寄与していく。



射撃用レーダ装置を準備する隊員



実技講習でヨガを行う参加者

訓練を視察した総監は「マインドフルネスのような技法・手法を知っているか知らないかで心のケアに差が出る。心の仕組みを知っておくことで自らを客観視することが重要であり、臨床心理士のようなケアする側をケアすることも重要である」と語った。

※マインドフルネス
過去や未来でなく、現在において起こっている経験に注意を向ける心理的な状態である。瞑想及びその名の訓練を通じて発達させることができる。



清水みなと祭での装備品展示(静岡地本)



募集対象者と懇談する女性隊員(群馬地本)

集広報イベントなどを計画している。厳しい募集環境に打ち克つためには、多くの方にリアルな自衛隊を見てもらい興味促進を図るとともに、来春入隊予定者の不安を解消することが重要である。このため駐屯地・部隊見学や隊員との懇談機会を多く設定し、地方協力本部と部隊等が一体となった募集活動を継続する。

方面隊は8月31日、朝霞駐屯地において令和5年度全国臨床心理士集合訓練を実施した。

本訓練は総監部医務官が担任し、テーマに基づき討議を通じた駐屯地臨床心理士としての研さんを図り、自衛隊の臨床心理業務に必要な識能の向上を図ることを目的に行われ、全国の陸・海・空自衛隊から臨床心理士等133人が参加(対面62人、テレビ会議システム71人)した。

午前中は「自衛隊におけるマインドフルネスの活用」(有事に備えて)をテーマに講義が実施され、その後、部外講師東京マインドフルネスセンター長長谷川洋介氏、防衛医大北野3佐高田駐屯地業務隊長長谷川技官による講話が行われた。また午後からは実技講習を行い理解を深めた。訓練の最後には意見交換を行い、参加者で情報共有した。

臨床心理士集合訓練 マインドフルネスの活用

訓練を視察した総監は「マインドフルネスのような技法・手法を知っているか知らないかで心のケアに差が出る。心の仕組みを知っておくことで自らを客観視することが重要であり、臨床心理士のようなケアする側をケアすることも重要である」と語った。

※マインドフルネス
過去や未来でなく、現在において起こっている経験に注意を向ける心理的な状態である。瞑想及びその名の訓練を通じて発達させることができる。

厳しい募集環境に打ち克つ 陸海空自衛隊サマーフレンドシップキャンペーン

方面隊は自衛隊の人材確保に対する本気度を発信するため、全国夏季採用広報キャンペーンに参加した。本イベントは7月21日から8月31日まで

の夏休みシーズンに自衛隊のリアルな魅力を多くの方に紹介し、体験していただきたい!との思いを具現化したものである。東方管内の駐屯地等でのさまざまなイベントを活用し、各地方協力本部と各部隊が一体となって採用広報を実施した。

イベント開始日の7月21日、各地方協力本部は東方管内の主要駅等90カ所において、市街地広報を実施し、東方管内35コ駐屯地で一斉放送による本キャンペーンの周知を図った。このため期間中に昨年度を超える多くの人材確保に資する情報を獲得することができた。

九都県市合同防災訓練

自治体等と連携し防災体制の強化を図る



救出救助訓練を行う第4施設群



医療救護訓練を行う第1後方支援連隊



航空機訓練を行う第1飛行隊

方面隊は9月1日、神奈川県相模原市において実施された令和5年度九都県市合同防災訓練に参加し、災害対処能力の向上を図った。

本訓練は昭和55年から首都直下地震等の被害を最小限に抑えるため、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、横浜市及び川崎市で行われ、現在では相模原市を加えた計9都府県により実施されている。

今年度の幹事である相模原市の相模原総合補給廠一返還地及び相模原航空隊及び東部方面システム通信群が訓練に参加した。訓練はマグニチュード7、最大震度6強の相模原市直下地震を想定して行われ、警察・消防等と連携した道路啓開訓練、救出救助・消火訓練、医療救護訓練、航空機訓練、現地合同調整所運営訓練等を実施した。

当日は岸田内閣総理大臣等が視察し、浜田防衛大臣が参加部隊の隊員を激励した。 関連⑥面

第12旅団

不撓不屈の精神力の涵養 旅団レンジャー教育開始

旅団は8月21日から新
発田駐屯地、大日原演習
場及び同周辺地域におい
て令和5年度旅団レン
ジャー集合教育(養成)

を開始した。
本教育は第30普通科連
隊長を担任官とし、レン

ジャーとして必要な知識
及び技能を修得させると
ともに、必要な資質、特
に強靱な体力及び精神力
を養うことを目的として

教育に先立ち、6月か
ら教官・助教を集めて行
われた教育者に対する事
前訓練では、認識の統一
や訓練地域の偵察及び教
授予行を実施し、レン
ジャー教官・助教として
の指導能力の向上を図
り、教育態勢を万全に整
えた。

旅団は8月21日から新
発田駐屯地、大日原演習
場及び同周辺地域におい
て令和5年度旅団レン
ジャー集合教育(養成)

を開始した。
本教育は第30普通科連
隊長を担任官とし、レン

ジャーとして必要な知識
及び技能を修得させると
ともに、必要な資質、特
に強靱な体力及び精神力
を養うことを目的として



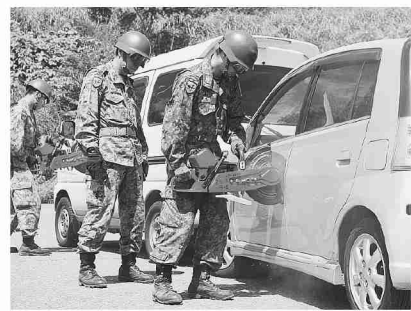
助教に見守られ駆け足行進を行うレンジャー学生



レンジャー訓練隊旗の授与



リペリング要領の認識統一(事前訓練)



乗員救助訓練を行う隊員

NEXCO東日本 と共同訓練を実施

第2普通科連隊及び第
12後方支援隊第1普通科
直接支援小隊は8月3
日、妙高市の上信越自動
車道において令和5年度
NEXCO東日本との共
同訓練を実施した。
本訓練は災害発生に際
し、NEXCO東日本と
緊密に連携して一連の部
隊行動を円滑に行うこと
を目的として行われ、災
害発生時における即応態
勢の向上を図った。
訓練では共同調整所の
開設をはじめ、乗員救
助、道路の段差復旧、路
傍整備所における車両整
備の訓練を行うことも
行った。

防大3学年の研修を支援 未来の幹部自衛官育成に寄与

旅団は7月1日から24
日までの間、相馬原駐屯
地及び旅団隷下各普通
科連隊において、防衛大
学3学年の陸上要員24
人に対して防衛大学校夏
季定期訓練部隊実習を支
援した。
旅団は本支援におい
て、連隊長等による精神
教育や40キロ徒步行進を
含む普通科職種各行動
の実習などを計画し、一
連の研修を通じ、幹部自
衛官の地位・役割及び部
隊の実情を体験させ、陸



旅団長訓話に聞き入る防大生

旅団は7月1日から24
日までの間、相馬原駐屯
地及び旅団隷下各普通
科連隊において、防衛大
学3学年の陸上要員24
人に対して防衛大学校夏
季定期訓練部隊実習を支
援した。
旅団は本支援におい
て、連隊長等による精神
教育や40キロ徒步行進を
含む普通科職種各行動
の実習などを計画し、一
連の研修を通じ、幹部自
衛官の地位・役割及び部
隊の実情を体験させ、陸

部隊での即戦力を目指して 新隊員特技課程実施中

自衛官候補生課程及び一般曹候補
生課程(前期)を修了した新隊員に
対し、7月以降、旅団隷下の各普通
科連隊、第12偵察戦闘大隊及び第12
施設隊の各教育隊では、新隊員特技
課程や一般曹候補生課程(後期)を
開始した。各教育隊は新隊員に対
して、部隊で即戦力になるための基礎
となる知識及び技能を段階的に修得
させていく。



【2普連】120mm迫撃砲の
操作訓練



【13普連】5.56mm機関銃を
携行して戦闘訓練



【30普連】警戒しながら
攻撃前進をする小銃分隊



【12偵戦大】16式機動戦闘車に
搭乗し訓練に参加



【12施】同期と力を合わせて
重材料運搬

野外体験入浴 消防キャンプ活動協力

第12後方支援隊は8月
4日、館林市において消
防組合本部で開催された
消防キャンプにおいて、
野外入浴セット2型によ
る体験入浴を実施し、陸
上自衛隊の災害時におけ
る能力の一端を披露する
とともに、自衛隊に対す
る認識と理解を深めても
らった。
キャンプには小学校4
年から6年生の子どもた
ちと、その家族約50人が
参加した。初めて目にする
野外入浴槽に子どもたち
は大興奮。入浴を終えた
子どもたちは、笑顔で隊
員らに御礼を述べてい
た。



入浴後に隊員と記念撮影する家族



駐屯地所在隊員の見守る中、伊澤准尉(左)に最先任
上級曹長識別さ章を授与する旅団長(右)

最先任上級曹長離着任式

第7代旅団最先任に伊澤准尉

旅団は7月20日、相馬
原駐屯地体育館において
旅団最先任上級曹長離着
任式を挙行し、第7代旅
団最先任に第12旅団司令
部付隊伊澤 芳明准尉が
着任した。
伊澤准尉は第8高射特
科群や第12高射特科中隊
(当時)で、最先任上級
曹長等としての勤務経験
がある。
着任に当たり伊澤准尉
は「昨今の陸上自衛隊に
おけるわれわれ准曹士に
求められる、期待されてい
ることは大変大きいもの
と認識している。特に統
合運用、新領域での戦い
方やミッションコマンド
といった多様な任務に対
応していく必要がある。

旅団は7月20日、相馬
原駐屯地体育館において
旅団最先任上級曹長離着
任式を挙行し、第7代旅
団最先任に第12旅団司令
部付隊伊澤 芳明准尉が
着任した。
伊澤准尉は第8高射特
科群や第12高射特科中隊
(当時)で、最先任上級
曹長等としての勤務経験
がある。
着任に当たり伊澤准尉
は「昨今の陸上自衛隊に
おけるわれわれ准曹士に
求められる、期待されてい
ることは大変大きいもの
と認識している。特に統
合運用、新領域での戦い
方やミッションコマンド
といった多様な任務に対
応していく必要がある。

群馬県戦没者追悼式



献花時に「慰安する」を演奏する12音

第12音楽隊は8月15
日、前橋市内において群
馬県戦没者追悼式におけ
る国歌斉唱などの演奏を
行い、同式典を整齐と支
援した。

第1施設団

新隊員教育隊 漕舟競技会

日本一熱い夏を同期と共に

第4施設群は8月9日、第5施設群は8月8日、それぞれ教育担任中候補生課程後期(施設)



同期と共に力漕する新隊員(左:第5施設群 右:第4施設群)



の一環として漕舟競技会を実施した。猛暑となった当日、新隊員達は勝負に懸ける気概を持って、これまでの練習の成果を遺憾なく発揮した。本競技会を通じ同期の信頼と絆をより一層深め、逞しく成長することができた。



白熱する漕舟競技会(上:第4施設群 下:第5施設群)



職場体験学習・インターシッピング

「働くを知る」機会を提供

古河駐屯地は自衛隊茨城地方協力本部及び栃木地方協力本部が担当する各学校行事を支援した。7月27日には栃木県内の高校生に対するインターシッピングを、8月3日、8日の2日間は茨城県古河市内の中学生に対する職場体験学習を支援した。



駐屯地司令との懇談



基本教練を体験



装備品の説明

参加者は駐屯地施設等の見学や、基本教練を体験したほか、駐屯地司令との懇談を通じて、自衛隊への関心と理解の促進及び地域社会への貢献を図った。

関東補給処

6代目最先任に小林准尉

銘「軍の要は戦闘にあり 座右の 万事作戦を基準とすべし」



准曹士朝礼において所信表明する最先任

令和5年8月1日付で、関東処兼ね霞ヶ浦



松戸支処の被服班作業場を視察する最先任

駐屯地第6代最先任上級曹長に小林 健太郎准尉が着任した。最先任は8月7日に実施した駐屯地准曹士朝礼の中で「まずは積極的に現場に進出し、各部・各支処等の現況を把握していく」と所存である。指導や

中学生の職場体験を支援

自衛隊の任務をPR

霞ヶ浦駐屯地は8月7日、近隣中学校に通う学生12人に対し職場体験学習支援を実施した。本支援は中学校が実施している「総合的な学習



迷彩服を試着する中学生



火器車両部の自動倉庫を研修する中学生

参加者たちは当初、駐屯地講堂において自衛隊の概要説明を聞いた。その後、基本教練の体験、迷彩服の試着、自動倉庫の見学を実施するとともに航空学校霞ヶ浦校のヘリコプターを研修した。参加者の1人は「自衛隊は訓練ばかりしていると思っていましたが、見方が変わりました」と感想を話してくれた。

処新着任者教育

共通する勤務事項等を教育

意見収集は、都度実施していく」と今後の方針を示した。8月23日、最先任は松戸駐屯地において松戸支処の現況把握を行った。松戸支処に到着した最先任は、当初会議室でブリーフィングを受けた後、落下傘整備工場において落下傘の概要や整備

関東処は8月9日及び24日、令和5年度前期定期異動に伴う新着任者教育を実施した。教育はテレビ会議システム(VTC)により各支処等に中継され、支処等を含む新着任者48人に対して行われた。

教育では参加者に対し関東処の任務や編成、災害対処や即応態勢に係る各種計画、特別勤務の概要等、処で勤務する上で共通する事項について理解させ、早期戦力化を図ることができた。

QR code and social media information for Camp Kasumigaura.

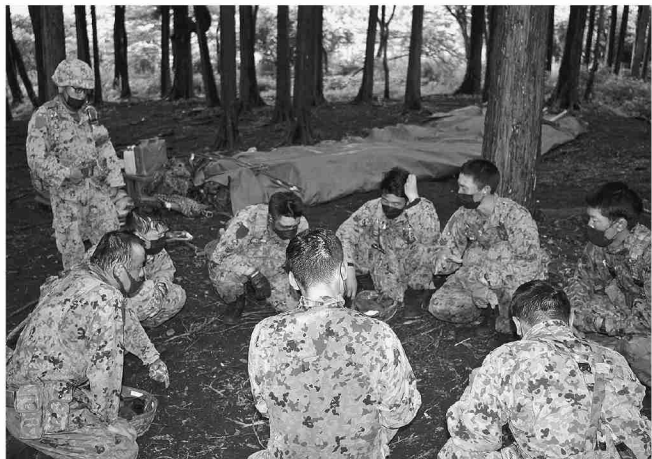


広報センターで展示品の研修をする被教育者

その後、本処における新着任者は、大型バスで駐屯地内を巡ることにより施設配置状況等を把握するとともに、広報センター研修においては、霞ヶ浦海軍航空隊や第1海軍航空隊等、地域及び駐屯地開設に至る歴史的背景を学んだ。

混成団

新たな教育に取り組む 心理的安全性の確保を含めたチームビルディング



現地における被教育者によるAAR

現在、われわれが置かれている世界の環境は、VUCA(変動性、不確実性、複雑性、曖昧性)という予期せぬ事態がいつ起こるかからぬ中にあり、迅速な状況判断・決心が要求されます。第

3陸曹教育隊は今年度から心理的安全性の確保を含めたチームビルディングに留意した教育要領に取り組み、その一端について紹介します。チームの定義は「リーダーを中心として明確な役割が付与されたメンバーが相互に依存・協力しつつ、共通の目的・目標を達成するため複数人からなる集団」です。このチームの力を発揮して任務を遂行することにより、自主的に動ける隊員の育成を目指しています。具体的には、①常に目的を意識(目的の理解、目的に対する決定的意義を有した目標の設定)、



被教育者によるAARの様子



夜空に上がる花火



駐屯地に設置した募集説明会場

立川駐屯地

夏の夜空を彩る 4年ぶりの花火大会

立川駐屯地は7月29日、立川市で行われた「念公園花火大会」を支援

「立川まつり国営昭和記念公園花火大会」を支援した。本イベントは昭和29年の第1回立川納涼花火大会以来今回で通算62回目であるが、2020年から新型コロナウイルス感染症の影響で中止が続

き、4年ぶりの開催となった。駐屯地では花火打上場の提供・テレビ会社への撮影協力などを支援し、大会の円滑な運営に寄与した。併せて「駐屯地花火観賞・募集説明会」を実施し、隊員家族及び近隣協力団体等との親睦を深め、隊員の融和団結と協力基盤の拡充・強化を図った。また募集説明会を行い、より効果的な隊員自主募集の目標達成に寄与した。都内各地でも花火大会が開催されていたが立川市には約35万人の観客が訪れ、夏の夜空を彩る花火を満喫した。

シ通群

九都県市合同防災訓練に参加 関係機関等との協力体制強化



移動受信装置の運用状況



ヘリより受信した映像を配信する隊員

群は大規模地震災害発生時における迅速かつ円滑な災害応急対策に資するため、相模原地区の状況をヘリコプターにより映像伝送するとともに、相模原スポーツ・レクリエーションパークに移動受信装置を開設し、映像

東部方面システム通信群は9月1日、神奈川県相模原市で実施された第44回九都県市合同防災訓練に参加した。九都県市(埼玉、千葉、東京、神奈川、

茨城、栃木、群馬、長野、山梨、新潟、富山、石川、福井、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、大阪、和歌山、奈良、徳島、香川、高松、愛媛、高知、福岡、佐賀、長門、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄)の地域は、わが国総人口の約4分の1にあたる約3600万人の人口を擁し、政治、経済等の中枢機能が集約している。災害による被害の影響は各地域に及ぶことが予想されていることから、本訓練はその被害を最小限に食い止めるため、九都県市が互いに連携・協力して、毎年、合同防災訓練を実施している。

情処隊

事態対処に必要な情報処理能力の向上 強靱な部隊を目指し隊員一丸

東部方面情報処理隊は令和5年度において、万



必要な情報等について隊内で検討する隊員

事作戦を基準とし各種事態に迅速に対応するための情報業務、各種訓練等

め、恒常的に実施している。必要情報を収集・処理し、適時適切に

提供できる能力の向上を図っている。令和5年度当初において、主に災害対処に必要な情報処理能力等のさらなる向上を目指し、各種情報処理システムの操作要領等について訓練を重ねた。

大規模地震発生に際し、総監部情報部と密接に連携し、総監の状況判断等のために必要な被害に関する情報等を具体化した。また6月に実施された令和5年度自衛隊統合防災演習に参加し、南海トラフ地震及びそれに伴い生起する各種複合事態への対応等に必要の情報処理能力の向上を図った。今後も強靱な東部方面情報処理隊の発展のため、隊員一丸となって邁進していく。



検討会で意見を述べる隊員

の受信・配信を実施した。システム通信群は今後、関係機関等との連携

協力体制の強化を図るとともに、引き続き部隊行動の命脈である通信機能

を最大限発揮できるように、練度の維持向上を図っていく。

栃木地本

担当広報官との絆を深める 入隊者が地域事務所を訪問

自衛隊栃木地方協力本部小山地域事務所は8月8日、今年3月に海上自衛隊佐世保教育隊へ教育入隊した熱海彩乃2等海士が、また8月10日、今熱海2海士は中学生時代に体験した護衛艦「あしがら」の体験航海に感動を覚え、海上自衛官に憧れて入隊を決意したという。念願が叶いこの春海上自衛官に合格し、佐世保教育隊を希望した。入隊後、教育隊では約5カ月間の基礎教育を経て、今後は護衛艦の乗組員として整備教育を受けることになる。また、教育隊での訓練や同期との営内生活について

「教育では走ることが苦手なので体力練成はきついが、同期と一緒に頑張ります。これから地域事務所の皆さんに大変感謝しています」と楽しんで話してくれました。



中島2曹と記念撮影する大田生徒

「教育では走ることが苦手なので体力練成はきついが、同期と一緒に頑張ります。これから地域事務所の皆さんに大変感謝しています」と楽しんで話してくれました。

高等工科大学へ入校した大田生徒の家族は、父が宇都宮駐屯地で勤務する自衛官で、母親も元海上自衛官、兄も高工校出身で現在、市ヶ谷駐屯

地で勤務、姉も海上自衛隊で勤務している自衛官一家である。大田生徒は曲がったことが嫌いでとても真面目な生徒である。学科試験では上位の成績をとる努力家であり、サイバー・コンピュータ部に所属しプログラミング技術やハッキング技術向上のため日々努力しつつ、楽しい学校生活を送っている担当広報官の中島2曹に話してくれた。

訓練所感

東部方面会計隊 第406会計隊 2等陸尉 西國原翔



新隊員教育区隊長として

私が教育を行うに当たり、着意したことは信頼関係の構築です。近年の新隊員の特性として「やる意味が分からない事はやりたくない」という傾向があるような気がします。このため心服的指導に留意して指導を行う必要がありますが、教育期間は約2カ月という短い期間であるため、完全な信頼関係を構築するには時間が少し足りないと思います。そこで、細時間を活用したレクレーションや、対話帳の実施等により、区隊長自ら隊員と接する機会を増やすことで、新隊員との信頼関係を構築できたと自負しております。

私には6月13日から9月8日までの間、東部方面会計隊本部において実施した会計科新隊員教育の区隊長として新隊員21人の教育を担当しました。会計隊の新隊員教育では、会計科隊員として必要な会計法令等「挨拶の確行」、「報告・連絡・相談」、「ルール」に関する知識と、現場で必要な基本的会計業務を約2カ月で修得させる必要があります。自衛官としてもまだまだ未熟な隊員を現場で即戦力となる会計科隊員に育成するため「挨拶の確行」、「報告・連絡・相談」、「ルール」に

静岡地本

模型ファンが自衛隊車両にくぎ付け 清水ホビーショーに参加

自衛隊静岡地方協力本部は8月12日・13日の両日、清水マリニルビル等（静岡市）で開催された第1回清水ホビーショーで広報活動を行った。

本イベントは模型産業を市全体で盛り上げるため初開催されたイベントで、模型の展示や子ども向けの体験会などが行われた。

静岡地本はマリニルビル前に広報ブースを開設し、自衛隊の部隊及び個人が作成した装備品の模型等を展示したほか、部隊訓練評価評価支援隊

が96式装甲車、第34普通科連隊が大型トラック、水トラレーラ及び高機動車等を展示した。夏休み中のイベントということもあり多くの家族連れが会場を訪れ、大型トラック及び高機動車の座席で記念撮影を行い、子どもたちはハンドルやクラクションを操作するなど大喜びの様子であった。

また展示された水トラレーラは昨年の台風15号による断水被害の際に会場のある静岡市清水区で活躍したもので、見学者は災害派遣の写真パネルや車両を見ながら「台風15号ではお世話になりました」

「自衛隊には期待して参加した。訓練に当たり平塚市長は「本年は関東大震災から100年に当たる。その教訓を生かしながら市民一体となって防災対策に取り組み必要がある。地震災害だけでなく豪雨災害などもいつ起こるか分からない。本訓練を通じて災害に対応する態勢をしっかりと作り上げよう」とともに、平塚市民の防災意識の高揚を図るきっかけとしてもらいたい」と挨拶された。

平塚地域事務所は「防災フェア」に広報ブースを設けて、東日本大震災令和元年台風19号等の自衛隊の災害派遣における活動パネルの展示を行い、災害対応時の自衛隊の役割について紹介した。神奈川地本は今後さまざまなイベントに参加し、自衛隊の活動等をアピールしていきたい。



高機動車で記念撮影する来場者



水トラレーラの説明を聞く来場者



開会式の様子



平塚地域事務所が設置した広報ブース

自衛隊神奈川地方協力本部平塚地域事務所は8月19日、平塚市総合公園で実施された平塚市総合防災訓練（防災フェア）に参加した。訓練内容は地震発生

最先任 上級曹長

「献身・信頼・熱意」

第1施設大隊

波多野 貴博 准陸尉

「あづま」をご覧の皆様、日々の訓練・業務等大変お疲れ様です。令和4年3月14日付で第6代第1施設大隊最先任上級曹長を拝命した波多野准尉と申します。第1施設大隊は令和5年度で創設72年を迎える歴史と伝統のある部隊です。この栄



えある72年の歴史と伝統は、先輩方々の営々と続けてこられた奮闘と、部外協力団体皆様の創隊以来変わらぬご厚情、ご支援の賜物と心から感謝申し上げます。

第1施設大隊の伝統は「頭号施設大隊としての誇り」であり、工兵から

科の隊員は、使命に対する自覚と誇りを持ち、常に技術の錬磨と創意工夫に努め、広い視野を保持し、周密機敏にして堅忍持久、よく他部隊と協同連携し、身を挺して積極果敢に任務の必遂を期さなければならぬ。また地形に習熟し、器資材を活用愛護しなければならぬ。

この伝統を継承し、第1施設大隊の歴史を一步一歩積み上げていきたいと思いを。

最後に、最先任上級曹長として自ら掲げている3つの信念を紹介したいと思います。①「献身」

オピニオン 一言申し上げる

東方オピニオンリーダー 北瀬 達也



自衛隊神奈川地方協力本部より推薦を頂き、オピニオンリーダーで副会長を務めさせていただいております。オピニオンリーダーの委嘱を受けて4年目になりますが、最初の2年間はコロナ禍で活動が制限され、十分に務めを果たすことができませんでした。昨年度より部隊研修等が本格的に再開され、東

防衛協会の事務局長、横浜中央募集相談員会の副会長を務めており、他都県のオピニオンリーダーや各部隊指揮官の方々と防衛諸団体の運営や募集環境などについて意見交換の機会を頂いております。今後も皆様と情報共有を図り、神奈川県民の自衛隊に対する理解を促進し、広報官が募集活動を行いやすい環境の整備に努めてまいります。また私は神奈川県

「全国民に幸パウダー」 第103補給大隊 土屋 夢花 陸士長

きで、何か人のためにできる事を考えた時に祖父から「自衛官は、国を守って、守られているよ」と言われ「守られるのではない、自分が守る側になりたい」と強く思い入隊を決めました。

Q2・現在の職務は？
需品業務手として入浴及び洗濯の支援を行っています。またその経験を

生かし、即応予備自衛官の招集訓練では、教育の支援も行っていきます。

Q3・自身のモットーは？
「自然体でいること」です。誰に対しても分け隔てなく接して、見栄を張らず自分に芯をもって人との関わりを大事にしたいと思っています。

Q4・現在、打ち込んで

いる趣味や特技は？
ダンスと音楽鑑賞です。ダンスは、幼い頃からHIPHOPダンスをしており、課外や休日はダンスをして過ごしています。音楽鑑賞では色々なジャンルの音楽を聴き、気分いいなら4、5時間経っていることもあります。

Q5・休日の過ごし方

は？
1人で映画や買い物、岩盤浴に行ったり、ダンスを踊ったり、音楽を聴きながら散歩をしています。また動画配信アプリを見てゴロゴロする事も多々あります。

Q6・今後の目標は？
陸曹候補生試験に合格して需品科隊員としての職能向上に努めます。

は新潟県新潟市出身の21歳で、現在は新隊員特技課程迫撃砲の班長を務めており、精強な新隊員を育成すべく日々精進しています。中隊では迫撃砲砲手として、正確かつ迅速な照準をし、射撃任務に貢献できるように日々努力しています。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
私が小学3年生の時、東日本大震災が発生した際に被災地に派遣された自衛隊の活動をテレビで見、私もこのような各地で起る災害にいち早く出動し、「人々を安心させ、その笑顔を守る」自衛官になりたいと思ったのがきっかけです。

Q2・なぜ普通科を選んだのか？
有事の際に最前線で命を懸けてわが国を防衛するのは普通科であり、入隊の動機である「人々を安心させる」という観点に最も近いと判断し、普通科を選びました。

Q3・休日の過ごし方は？
趣味は古着屋巡り。普段から友人と古着屋を回り、気に入った服があれば財布と相談して購入しています。またラーメンが大好きで、友人と古着屋巡りをした後によくラーメンを食べて帰ります。

Q4・座右の銘は？
「努力は報われるものではなく、報われるまで努力する」という言葉です。これはサッカーのリオネル・メッシ選手の言葉です。

Q5・今後の目標は？
私は学生時代から少林寺拳法をしています。その経験を自衛隊の格闘などに生かし、ゆくゆくは格闘指導官となり、個人としての職能向上はもちろんです。部隊の精強化に努めていきたいと思っています。

今月のフェアレディは、東部方面後方支援隊第103補給大隊に所属する土屋士長です。埼玉県新座市出身の土屋士長は、令和3年9月に第103補給大隊第1補給中隊に配置になり、需品業務手として、常即一体の練度向上に貢献するべく、日々の業務に励んでおられます。

Q1・自衛隊に入隊したきっかけは？
人を笑顔にする事が好きです。



東方男児 「一生懸命」 第30普通科連隊 宇治 音弥 3等陸曹



今月の東方男児は、第30普通科連隊所属の宇治音弥3曹です。宇治3曹

自衛官に異動はつきものです。私事ですが、この度の8月の異動で新しい補職に就くことになりました。一般的に異動すると、職場が変わり仕事内容が変わり接する人が変わり、場合によっては生活環境が変わります。自分を取り巻く環境が一気に変わるので、強いストレスを感じると思います。そのため異動することについては、前向きに受け入れられない人もいますが、私は結構好きです。せつなく覚えてきた業務を手放し、また一から新しい業務を覚えることや、新しい職場で勤務することに不安はありませんが、今までやったことのない業務に取り組むと、私の勝手なイメージですが、細胞が活性化して若返る気がするからです。また新しい職場に異動したからといって、今まで築き上げてきた人間関係がなくなることなく、むしろ新しい人たちと出会うことができ、人の輪が大きくなるからです。周りの人と協力して任務を遂行していく自衛官にとって、知り合いが多いということは大きな強みだと思います。

この度の異動によって新しい職場で奮闘されている皆さん、早く戦力となれるように一緒に頑張っていきましょう！

編集後記

自衛官に異動はつきものです。私事ですが、この度の8月の異動で新しい補職に就くことになりました。一般的に異動すると、職場が変わり仕事内容が変わり接する人が変わり、場合によっては生活環境が変わります。自分を取り巻く環境が一気に変わるので、強いストレスを感じると思います。そのため異動することについては、前向きに受け入れられない人もいますが、私は結構好きです。せつなく覚えてきた業務を手放し、また一から新しい業務を覚えることや、新しい職場で勤務することに不安はありませんが、今までやったことのない業務に取り組むと、私の勝手なイメージですが、細胞が活性化して若返る気がするからです。また新しい職場に異動したからといって、今まで築き上げてきた人間関係がなくなることなく、むしろ新しい人たちと出会うことができ、人の輪が大きくなるからです。周りの人と協力して任務を遂行していく自衛官にとって、知り合いが多いということは大きな強みだと思います。